

11.10

緊急院内集会

講演：池内 了さん（名古屋大学名誉教授）

# 軍に奉仕する科学でいいのか

## 軍事研究予算の大幅拡大を止めるために

今、日本の科学が軍の下請けになるかどうかの重大な瀬戸際にあります。防衛省が創設した「安全保障技術研究推進制度」と呼ぶ競争的資金制度を通じて、大学や研究機関の研究者を軍事研究に誘い込みつつあるからです。

日本学術会議はアジア太平洋戦争時の戦争協力の反省に基づき、1950年と1967年に「戦争を目的とする科学の研究には絶対従わない」とする声明を決議し、以降もそれらを堅持して、軍事研究を拒否してきました。しかし、現在の日本学術会議会長は「自衛のための研究は容認されるべき」と主張する大西隆氏で、氏の提案により「安全保障と学術に関する検討委員会」が設置され、今までの姿勢の見直しの可能性も含めた検討作業が進んでいます。その結論は、日本の学術界の軍学共同の行方を大きく左右するでしょう。

留意すべきことは、防衛省がこの競争的資金制度のための予算として、昨年度は3億円、今年度は6億円、来年度の概算要求はなんと110億円へと18倍に大幅増額を画していることです。研究者の研究費不足につけ込み、日本版「軍産学複合体」を本格的に構築することを目論んでいると言えるでしょう。

軍に奉仕する科学にさせないためには、研究者や市民と国会議員との連携を強めることが不可欠です。そのため、緊急の院内集会を企画しました。

ぜひ多くの国会議員や研究者、市民が参加されるよう呼びかけます。

### 講師プロフィール

1944年兵庫県生まれ。名古屋大学および総合研究大学院大学名誉教授。専門は宇宙物理学・宇宙論、科学・技術・社会論。最近の著書に『科学者と戦争』（岩波新書）、『兵器と大学』（共編著、岩波ブックレット）、『武器輸出大国ニッポンでいいのか』（共著、あけび書房）など。

●11月10日 18時～19時30分

●参議院議員会館 101 会議室

（永田町駅、国会議事堂前駅）

※ロビーにて通行証を配布します。

主催：軍学共同反対連絡会

事務局 [kodera.t311@gmail.com](mailto:kodera.t311@gmail.com)

ホームページ <http://no-military-research.jp/>

ツイッター [https://twitter.com/AMR\\_Japan](https://twitter.com/AMR_Japan)

共催：立憲フォーラム